

中期ビジョン		見つける、伸ばす、認められる	
戦略分野	行動目標	KGI	実施計画
1. 戦略的な入試広報 魅力あふれる福井中・高を正確かつ効果的に発信することで選ばれる学校としての地位を確立する。そのために、全教員の共通理解を図り、統一された広報活動、ニーズに応じた発信方法を展開する。また、中高大の内部連携を強化し、さらに、塾、県外へのアプローチを行うことで、優秀な人材を確保するための広報活動を実施する。	(1) 統一された広報体制の構築	<中高> ◎様々な地域と対象に応じた訪問回数の増加 ◎定員超過 <高校> ◎近年の平均来場者数より250名の増加 ◎全体の募集定員に対して40%を特別進学科の入学者にする <中学> ◎近年の平均来場者数の20%増 ◎学業優秀者の確保(選抜一貫クラスの2学級編成)	①県内と県外のそれぞれにおける広報・募集体制の見直しと構築 ②小学校教員・小学生・保護者対象の広報・募集体制の構築(中) ③中学校教員・中学生・保護者対象の広報・募集体制の構築(高) ④県内外の塾への広報・募集体制の構築 ⑤学校周辺の地域への広報体制の構築 ⑥中学と高校の教職員全体の広報・募集体制の構築 ⑦包括的な広報・募集体制の構築
	(2) 時代のニーズを捉えた入試広報活動の実施		①最新のツールを活用した広報・募集の実施 ②時代のニーズに合った入試制度と奨学金制度の構築と実施 ③戦略的な広報・募集イベントの見直しと実施 ④小学校教員・小学生・保護者対象の広報・募集の実施(中) ⑤中学校教員・中学生・保護者対象の広報・募集の実施(高) ⑥県内外の塾対象の広報・募集の実施 ⑦学校周辺の地域への広報の実施 ⑧広域の広報・募集の強化 ⑨中高の学科再編に応じた広報・募集活動の実施 ⑩生徒個々の活動等の広報の強化 ⑪学科再編を見据えた定員管理
2. 教育の深化 各学校において、生徒や保護者のニーズに対応し、満足度を高めていくためにより良い教育体制の構築を目指す。そのために、各学科・各コース・各分野ならではの付加価値を明確化し、授業内容や資格取得環境をより充実させるとともに生徒一人ひとりが文武両道を実現できる学習支援体制を確立していく。また、中高一貫教育をより魅力あるものにし、地元を中心に成績優秀児童やその保護者から選ばれる学校となることが最重要課題である。そのために、6年1サイクルでのカリキュラム確立、経験豊かな専属教員陣の配置、国際化に対応するためのグローバル体制を構築していく。さらには、リーダー育成も重視し、特色ある行事や活動の中で生徒一人ひとりの主体性を育む自治活動を強化していく。	(1) 生徒の満足度を高める教育体制の構築	<中高> ◎生徒満足度100% ◎付加価値の明確化 <高校> ◎東京大学合格者の継続した輩出 ◎単位未修得者の減少 <中高> ◎文武両道を実践できる学習支援体制の構築	①カリキュラム・授業体制の見直しと生徒に対する付加価値の明確化 ②特進生徒の難関大学に対応した学力向上 ③東大合格プロジェクトの推進(高) ④単位修得体制の見直し(高) ⑤工大生とのTTによる補充学習の充実(中) ⑥評価の見直しと統一 ⑦試験内容の充実(高) ⑧道徳、LHR、総合学習、補習授業、選択授業、朝学習の再検討 ⑨ICT教育の充実 ⑩情報活用能力の育成 ⑪体験型学習充実や中高大産学連携による理科系授業の重視 ⑫文武両道を実践できる学習支援体制の構築
	(2) 中高一貫教育の実現	<中高> ◎6年1サイクルでのカリキュラム確立とそれを意識した教員配置 ◎教育効果を高める学習指導体制の構築 ◎中高教員による生徒の情報共有	①6年1サイクルでのカリキュラムの確立と教員配置 ②中高教員による生徒の情報共有 ③確かな学力を保證するマニフェストの掲揚 ④他校への視察 ⑤優秀なスタッフの採用 ⑥特待制度の検証
	(3) 生徒の主体性を活かした自治活動の実施	<中高> ◎リーダーシップの取れる生徒の育成	①情報メディアを活用した生徒による情報発信 ②生徒会・各種委員会・係活動の活性化 ③他校生徒会の見学と交流 ④生徒主体での遠足や文化祭・体育祭の企画 ⑤学科やコース単位の活動の強化(高) ⑥リーダーシップを発揮できる教育活動の充実 ⑦リーダー研修会の開催やイベント実行委員会の結成 ⑧異学年による教育活動の充実
	(4) 生徒の豊かな心を育む学校行事の選定	<高校> ◎各学科ごとによる特性を生かした行事の実行 <中高> ◎体験型を重視した教育活動の充実 ◎奉仕の心を育むボランティア活動の充実 ◎生徒の学校行事に対する満足度100%	①学業とのバランスを意識した年間スケジュールの策定(高) ②奉仕の心を育むボランティア活動の充実 ③地域社会と連携した教育活動の実施 ④本物に触れる芸術鑑賞の充実 ⑤PDCAサイクルを活用した改善策の検討

戦略分野	行動目標	KGI	実施計画
<p>3. グローバル化の推進</p> <p>現代のグローバル社会においては、他国との違いを知り、理解の幅を増やし、違いを受け入れる懐を深くすることが求められる。そのためには、実際に外国人と触れ合い、異文化理解を深める必要がある。さらに絶対的に必要である英語力を高めるために、日常的に英語を聞く、話す環境を整備する。また、ハングリ精神の強い外国人と競い合っていくために、実際海外生活経験をさせることで自己主張する力を身につけさせる。</p>	<p>(1) 学内グローバル体制の構築</p>	<p><中高> ◎日常的に英語に触れる環境の構築 ◎英語の資格試験受検者数の増加率200%(高) ◎実用英語技能検定・各種テストの合格率の増加 ◎語学力と表現力の向上</p>	<p>①留学生との混成クラスの創設(高) ②英語リスニング・スピーキング力の向上 ③TOEIC受検(特別進学科の生徒対象)、実用英語技能検定、その他外部の英語検定の活用 ④英語弁論での入賞 ⑤English Roomの設置</p>
	<p>(2) 学外グローバル化の推進</p>	<p><中高> ◎語学力を高める留学制度の確立</p>	<p>①学内留学制度の充実 ②姉妹校との単位互換制度の確立(高) ③新規姉妹校との交換留学制度の確立 ④海外プログラムへの積極的な参加 ⑤成績優秀者に対する学位留学制度(高) ⑥留学生に対する補助金制度の設定 ⑦外部試験(英検・GTECなど)の成績優秀者に対する補助金制度の確立 ⑧留学を斡旋する外部機関との連携</p>
<p>4. 教育環境・教育支援の充実</p> <p>学習、生活、進路、部活動などすべての学校環境を整備することにより、生徒の学習に対する満足度と学力の向上、生徒保護者に安心感を与えられる学校生活環境・教育相談体制、生徒の夢を叶える継続的な進路指導、そして生徒の実力を最大限発揮できる部活動環境の提供を実現する。さらに生徒の学力と人間性を高める最大の方策は「人」と捉え、生徒に最も近い存在である教員の資質と意欲の向上を図る。</p>	<p>(1) 主体的な学びを実践できる環境整備</p>	<p><中高> ◎専門分野ごとの主体的な学びを実践できる環境</p>	<p>①「自主学習室・個別指導スペース」増設の企画・立案 ②各施設完備の企画・立案 (安定した学習に専念できる教室の整備、特別教室の充実、校庭、図書館、相談室、美術室、技術室、進路相談室、理科室、コンピュータ室、閲覧室、内線電話の設置(職員室、保健室と各教室)、ICTの整備、中高共有スペース(多目的室)の設置) ③部活動生への学習支援 ④個人をサポートするTT授業の実施</p>
	<p>(2) 個に応じた継続的な進路指導の実現と環境の整備</p>	<p><中高> ◎進路指導の専門家を養成し、一貫したキャリア指導体制の構築</p>	<p>①進路(就職)に関する専門教員の配置 ②情報収集の充実 ③生徒の進路に関する情報の管理と共有 ④卒業後の進路を考えてのキャリア指導教員の配置 ⑤企業対応、生徒対応が柔軟に出来る環境整備</p>
	<p>(3) 生徒が実力を発揮できる部活動環境の充実</p>	<p><中高> ◎すべての部活動(運動部・文化部)に対して、専門指導者の配置と、活動場所の確保</p>	<p>①福井工業大学の各部活動との連携(合同練習や練習試合・大学生コーチの指導・学生トレーナーのサポート) ②実業団・クラブチームとの連携 ③地域の催し物やイベントへの積極的な参加</p>
	<p>(4) 安心した学校生活を送れる環境の提供</p>	<p><中高> ◎生徒・保護者の学校生活満足度の向上 ◎各種寮の増設による充実</p>	<p>①駐輪スペース増改築の企画・立案 ②各種寮の増設と充実(寮監・風呂・食事施設完備) ③内線電話の設置(職員室、保健室と各教室) ④相談室・進路相談室の増設 ⑤ネット通信の活用・充実</p>
	<p>(5) 生徒と保護者が安心する教育相談体制の構築</p>	<p><中高> ◎「生徒・保護者・教員」に対応した教育相談の整備</p>	<p>①教育相談専門教員(常勤カウンセラー・心理職)の配置 ②教育相談体制の構築 ③教育相談専任教員の育成</p>
	<p>(6) 教員の資質の向上</p>	<p><中高> ◎定期的な学内研修会の開催 ◎学外研修会の参加およびフィードバックの体系化</p>	<p>①定期的な外部研修の導入 ②専門教員による教員研修の充実(非常勤講師の有効活用) ・初任者教員研修の充実 ・中堅教員研修の充実 ・学内研修の充実</p>

戦略分野	行動目標	KGI	実施計画
<p>5. 中高大連携の推進</p> <p>大学卒業後を見据えた中高大連携の教育体制の構築を目指す。また、教職員及び保護者が相互に協力し合うことにより、学生、生徒の人格の育成、及び学力を兼ね備えた魅力あふれる人材を輩出していく。さらには、中・高・大・大学院間の連携を深めることにより、内部進学者の質の向上を図る。</p>	<p>(1) 真に連携できる中高大体制の構築</p> <hr/> <p>(2) 中高大情報共有システムの構築</p>	<p><中高> ◎2年間で中高一貫教育体制の整備 ◎3年目から併設型の中高一貫教育の開始 ◎5年で中高一貫教育体制の確立 ◎内部進学率を高める教育体制の整備 <高大> ◎工大進学率を高め、年間中退者数を出さない教育体制の整備</p> <hr/> <p>◎中高・高大で内部進学者の情報共有を図る</p>	<p>①中高一貫教育実現のための中高一貫課の設立(高) ②中高一貫教育実現のための中高一貫委員会の設立(中高) ③連携委員会の設立(中高、中大、高大) ④高校教員も交えた多様な進路面談・説明会の充実(中高) ⑤連携促進のための合同行事や交流活動の開発(中高、中大、高大) ⑥目指す中高一貫教育の目標やイメージの確立とその周知(中高) ⑦質の高い小学生を入学させるための中高連携した組織的な募集活動(中高) ⑧非常勤講師や予備校講師も含めた中高連携による教科会の充実と教科間 の連携(中高) ⑨アクティブラーニング、探究型学習の推進(中高) ⑩理数教育・英語教育等での質の高い教育の保障(中高) ⑪非常勤講師も含めた中高教員間の共通理解と連携する意識の向上や協力体制(中高) ⑫県内外派遣等の教員研修やOJTの充実による教育のエキスパートの育成(中高) ⑬組織マネジメントによる中高教育業務の進展(PDCAを回し、成果の検証と積み上げ、共有・協働、引継ぎ)(中高) ⑭工大補習の充実による工大進学者の基礎学力不足の解消(高) ⑮工大教員による面談・説明会の充実によるミスマッチの防止(高大) ⑯高3後期の「履修内容」による大学での単位認定制度の設立の検討(高大) ⑰生徒の進路追跡調査の実施(中高、高大) ⑱生徒、保護者、教員が閲覧可能な進路情報システムの構築(中、高、大) ⑲PCのシステム化による生徒情報の共有(中高) ⑳ICTの活用による業務の簡略化の追求とその共有(中、高、大)</p>
<p>6. 学校改革の実現</p> <p>県内において、同じ敷地内に「中高大」と、心身共に発達著しい時期にある子供たちの10年間の成長を見守ることのできる施設が完備されているのは本学園だけである。この好条件を活かし、中高大教職員における情報共有・相互理解・情報交換もしくは多角的見地による意見交換など、その時代の社会的ニーズを捉えながら、来る10年間というスパンで学生生徒の教育課程に携わっていくことは本学の責務である。</p>	<p>(1) 意欲的に働ける環境の提供</p> <hr/> <p>(2) 外部評価制度の導入</p>	<p><中高> ◎質の高い教員の確保について本部と協働する ◎学校改革の実現ができる教員の配置 ◎戦略分野に応じた校務分掌体制の構築</p> <hr/> <p><中高> ◎外部からの学校評価の充実 ◎「学校改革推進委員会」の創設</p>	<p>①人事制度改革の企画・立案 ②中高教員が情報共有・交換できる場の提供 ③各校務分掌の取り組みにおけるPDCAサイクルの確立</p> <hr/> <p>①各種専門委員会の設立 ②各種団体(大学・企業・協会など)からの学校評価(進学・就職・スポーツ・看護分野など) ③学校評価アンケートの充実</p>